

宮城県仙台二華中学校・高等学校 学校イメージ調査の結果について

調査の背景

宮城県仙台二華中学校・高等学校は、開学以来、高大連携事業の一環として東北大学大学院教育学研究科・教育学部と協働し、学校経営改善に関わる調査研究を実施してきました。現在、本校は「総合力日本一の中高一貫教育校」を目指し、真に国際社会に通じるグローバルリーダーの育成を目指した人づくりを進めています。この目的を達成するためには、具体的なデータに基づき、学校経営の実情を振り返り、つねに改善を繰り返していくことが不可欠です。本調査の結果を踏まえて、これまで以上に学校経営の改善に努めてまいります。

学校イメージ調査の概要

本調査は、本校に入学後、比較的早い時期に生徒の実態を把握し、また保護者のニーズを把握すること目的としています。今年度の調査対象は、中学校1年の生徒（105名）と保護者、高等学校1年の生徒（240名）と保護者です。調査項目は、属性、満足度、期待度、自由記述から構成されています。調査時期は7月初旬でした。この時期は、中総体や高総体、定期試験が終了した時期であり、生徒が学校生活に慣れてきたと思われる時期です。

調査結果から、全体として生徒・保護者とも、満足度と期待度がともに高いこと、男女には大きな差異はないことが明らかになりました。

中学生の学習態度は良好であり、知的好奇心の高い生徒が多いことがわかりました。「授業に出るのが楽しみ」など質問項目において、例年にない高い数値が示されています。

高校生は多くの生徒が学校生活になじみ、落ち着いた学校生活を送っています。男子は「難問や発展的な問題」などにおいて高い数値を示しており、チャレンジ精神が旺盛です。女子は「予習や復習」などにおいて高い数値を示しており、堅実に学習に取り組んでいる様子が伺えます。また一貫生は「学校外での趣味」「新聞を読む」「難問や発展的な問題」などの項目において高入生よりも高い数値を示しており、幅の広い学びに取り組んでいる様子が伺えます。一方、高入生は「先生の言うこと聞く」「部活動を頑張りたい」などにおいて高い数値を示しており、仲間と共に学び合う姿勢が認められます。

保護者からは、全般的に高い満足度と高い期待度が示されています。とくに「大学受験のための学力養成」「教員の指導力」に対する期待度が高くなっています。

この調査結果を踏まえ、一人ひとりの生徒の長所をさらに伸ばし、また学校全体として生徒たちの学びの質を高め、本校のビジョンの実現に向けていっそうの改善に励みます。

調査

企画および調査実施機関：宮城県仙台二華中学校・高等学校、東北大学大学院教育学研究科
実施時期：2013年7月1日（月）～7月12日（金）